

★イルクーツク基本情報

- ・イルクーツクはウラジオストクから4,106km、モスクワから5,153kmのシベリア鉄道のほぼ中間点に位置する東シベリアの政治、経済、文化の中心地。
- ・エニセイ川の支流イルクート川とアンガラ川の合流地点に位置する。人口約58万人。
- ・世界自然遺産のバイカル湖からは66km離れている。
- ・産業は工作機械の製造、水力発電、金やダイヤモンドの採掘など。
- ・文化的には教育機関が充実し、総合大学、工科大学、農業大学、教育大学、外国語大学、経済大学、医科大学がある。日本の金沢市とは姉妹都市の関係にある。



●市のシンボル「パーベル」



●市内を流れるアンガラ川

★イルクーツクの気候

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高気温(°C)	-15	-11	-2	7	16	23	25	22	15	7	-5	-14
最低気温(°C)	-27	-25	-18	-5	1	7	11	9	2	-5	-17	-25
降水量(mm)	12	9	13	19	33	62	120	83	50	30	18	19

★イルクーツク小史

- ・1661年アンガラ川右岸の砦として建設され、1686年に市となる。
- ・18世紀の初めからロシアの中国及びモンゴルとの通商上の通過都市として重要視され、毛皮の集積地や、清やタシケントとの国境交易の基地として使われてきた。
- ・1803年にシベリア総督府、次いで1822年東シベリア総督府が置かれた。
- ・1825年にはデカブリストの乱を起こした貴族たちが流されたが、その後イルクーツクは政治犯の流刑地とともに東シベリアの文化活動の中心地となった。
- ・日本との関係では、1701年、最初にロシアを訪れた日本人伝兵衛がイルクーツクに滞在。大黒屋光太夫もサクトペテルブルクへの往路、復路ともに滞在した。その後、日本人の漂流民を教師とする日本語学校も開設され、ロシアの極東、カムチャッカへの進出の拠点となった。



●市内のアレクサンドル3世像



●ズナメンスキー女子修道院

★イルクーツクの見どころ

・イルクーツクのズナメンスキー女子修道院

イルクーツクで最も古いロシア正教の女子修道院。デカブリストの乱でシベリア流刑になった人たちの墓もある。

・イルクーツクのオールドイルクーツク

木造建築が多く残っていたセドヴァ通りと7月3日通り、コジョヴァ通りに挟まれた三角地帯に帝政時代を再現する一角が建設された。ちょっとしたテーマパークのようだが、ブティックなども並び、現代と帝政時代を合わせたような不思議な空間となっている。

・イルクーツクのキーロフ広場周辺

キーロフ広場一帯は県庁やボリスキー教会、スパスカヤ教会、バガヤヴェリンスキー聖堂などのイルクーツクの見どころが集中している。スパスカヤ教会は白壁と緑色のドームのコントラストが美しく、バガヤヴェリンスキー聖堂はびっしりと描かれたフレスコ画が美しい。



●オールドイルクーツクの町並み



●キーロフ広場の永遠の火

★イルクーツク旅行についてのお問い合わせは……

(株)ロシア旅行社

担当:加藤 聡

電話:03-3238-9101

ファクス:03-3238-9110

e-mail:indivi@russia.co.jp